

令和5年度 三郷市学校評価システム 本評価:学校関係者評価シート

評価項目	評価項目	No.	質問項目	学校自己評価結果	学校関係者評価結果	学校自己評価についての評価の説明及び学校の考え	
組織運営等の状況	教育目標	1	学校は、児童・生徒及び家庭・地域の実情を踏まえ、適切な目標を設定し組織的に取り組んでいる。★	3.48	3.57	目的への共通理解は図れているが、意識に差がある。具体的な手立ちも、組織的に同一歩調で進めていきたい。	
		2	学校は、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもと、学年・学級や教科・分掌等の経営にあたっている。	3.14		計画的に部会にて課題解決へ向けての話し合いが行われている。改善から計画にかけての部分を具体的にしていける必要がある。また、各分掌を協働できる体制を整えていく。	
	特色ある学校づくり	3	学校は、特色ある学校づくりの観点から教育内容の重点化を図っている。	3.14		「地域で学び、地域で育つ」のもとで教育活動を進めている。コロナ禍に中止していたものも、形を変更して実施できた。	
		4	学校は、特色ある学校づくりのテーマのもと、教職員の共通理解を図り、「夢を育む教育」に組織的に取り組んでいる。★	3.14	3.50	町たんけんや稲作づくりだけでなく、どの学年でも地域との学習を位置づけ学びを深めていきたい。	
	資質向上	5	学校は、教職員の不祥事根絶をするための取組をしている。	3.86		校内倫理確立委員会を輪番制で行い、自分事として捉えられるような話し合いの場を設けている。さらに内容を充実させていきたい。	
		6	学校は、教職員の指導力向上に向け、計画的・組織的に研修に取り組んでいる。	3.48		計画的に研修が進められ、授業改善に取り組んでいる。課題研修以外の個々の研修に取組む、時間の確保が必要である。	
授業等の状況	学力向上	7	学校は、児童生徒の実態を把握し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組んでいる。	3.00		研修を通して、授業の流れ等の形ができてきている。お互いの授業を参観する機会を設け、指導法の研修をさらに深めていきたい。	
		8	学校は、日々の授業等を通して、児童生徒に基礎的・基本的な学力を身につけさせている。	3.19		授業展開で、児童の実態に合わせて基礎的な学力を身に付けさせるための指導方法を工夫している。また、チャレンジタイムやのびのびタイムを活用し、学校全体で基礎学力の定着に努めている。	
	授業規律	9	学校は、教職員の共通理解を図り、「授業の心得」に基づき指導にあたっている。	3.19		教員も児童も「授業の心得」を意識しており、落ち着いた授業が展開されている。	
		10	学校は、児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、授業を展開している。★	3.48	4.00	学年を超えた教員間の支援体制のもと、授業に集中して取り組んでいる。	
	読書のまち	11	学校は、図書館経営を充実させ、読書活動を推進している。★	3.57	3.86	年間を通して、図書委員会を中心としたイベントを実施し、図書館に通いやすくなる工夫をしている。お話し隊の活動が増え、読書への興味も増えている。	
		12	学校は、児童生徒が主体的に読書活動に取り組めるよう指導している。★	3.33	3.29	児童に読書をしたという気持ちはあるが、時間の確保が課題である。貸出し冊数だけではなく、児童がどのように本を活用し、学びを深めていくかの研修が必要である。	
	健康・体力	13	学校は、規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	3.38		定期的な学校栄養士の方の、食に関する指導や給食委員会の呼びかけを通して、児童が食の大切さに気付くようにしており、残業にも児童の意識が向いてきている。	
		14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、授業や部活動・外遊びに意欲的に取り組めるよう指導している。★	3.29	3.14	教員の声掛けにより、休み時間に外遊びをする児童が増えてきているが、体力的には低下傾向にある。学校全体で、具体的な取組が必要である。	
	道徳の推進	15	学校は、児童生徒や地域の実態に応じて、道徳教育の改善に取り組むとともに道徳教育を積極的に推進している。	2.81		全校での心の木の掲示を通して、友達の良さを認める活動を行った。自己共に認められるような取り組みを実践するとともに、道徳の授業の充実にも努めている。	
		16	学校は、教育活動全体を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に努めている。	3.05		廊下の掲示物がとれていたり、ごみが落ちていたりしても気が付かない児童がいる。道徳の授業だけでなく、日々の生活においても指導を重ねていく。	
	指導・管理の状況	礼儀正しい児童生徒の育成	17	学校は、教職員が自ら手本となり、児童生徒に対し規範意識を高める指導を行っている。	3.29		言葉遣いや挨拶など、基本的な部分での意識が低いので、指導を繰り返すとともに、家庭にも呼びかけていきたい。
			18	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるように指導している。★	3.62	3.71	毎月児童の挨拶を話し合う場を設けている。朝の挨拶はできるようになってきているが、常時できるようにしていないので、引き続き指導を続けていく。
19			学校は、児童生徒が「です、ます」をつける等、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	3.33		繰り返しの指導が必要である。その都度、個別に指導をするとともに、教職員もしっかりと範を示すようにする。	
生徒指導		20	学校は、児童生徒の不登校や問題行動に対し、共通理解を図り組織的に対応している。	3.67		組織で対応できる場が整っており、日頃から情報交換をし、素早い対応ができていく。	
		21	学校は、保護者(必要に応じて関係機関)と連携を図り、児童生徒の指導にあたっている。	3.57		保護者だけでなく、SCやSW、児童相談所等、関係機関とも連携が図れている。	
		22	学校は、いじめの早期発見、早期対応に努めている。★	3.71	3.86	毎月のアンケートや日頃の生活から、早期発見、早期対応に努め、全職員で共通理解し対応している。	
安心・安全	23	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.43		傷病者対応マニュアルを全教員が持ち歩き、迅速な対応ができるようにしている。マニュアルをわかりやすくして、すぐ使える工夫も必要である。		
	24	学校は、定期的に安全点検を実施し、計画的に安全指導を行う等、日頃から安全な教育環境づくりに取り組んでいる。★	3.62	3.71	毎月、毎日の安全点検を確実にしている。老朽化に伴い修繕箇所が多いが、教育委員会と連携し改善していきたい。		
教育環境	25	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れる等、組織的に環境美化に取り組んでいる。★	3.10	3.43	清掃指導に差がみられる。振り返りと改善が必要である。掲示板の計画的な活用をしていきたい。		
	26	学校は、組織的に働き方改革を進めている。	3.29		教職員の意識改革は進んできている。行事や会議、教育課程等の見直しもしているが、業務内容が精選できないため、改善が必要である。		
家庭・地域との連携状況	27	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報を発信している。★	3.62	3.86	随時ホームページが更新できている。各学年等でアップできるような、時間的余裕ができるよう充実できる。		
	28	学校は、保護者や地域と連携し、親の学習や学校応援団の活用を図っている。★	3.10	3.43	ミシンボランティア等、コロナ禍前同様の協力体制が整ってきた。親の学習を懇談会時に取り入れることができ、家庭への発信ができるようになった。		
	29	学校は、PTA活動や地域活動に積極的に協力している。★	3.52	4.00	PTAと協力し、PTAフェスタを新しい形で実施できた。今後もあらゆる場面で、協力体制を築いていきたい。		

★マークが付いている評価項目については、必ず学校関係者評価を実施する。